

※2021年5月2日～2023年5月1日の期間

教育研究業績書

氏名	ひろすみ 廣住 豊一	職名	教授（博士（学術））
専門分野	農業土木学、土壌物理学、農地工学、花き園芸学		
所属学会	農業農村工学会、土壌物理学会、園芸学会、日本土壌肥料学会、畑地農業振興会、日本温泉科学会		
担当科目	環境情報学概論Ⅰ(分担)、環境情報学概論Ⅱ(分担)、入門演習Ⅰ、入門演習Ⅱ、基礎演習 a、基礎演習 b、専門演習 a、専門演習 b、専門演習 c、専門演習 d、地球環境学総論、食糧生産学、食品衛生学、土壌学、地球環境学、環境科学、生活環境学、環境実験・調査 a、環境実験・調査 b		
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	概	要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>講義形式の授業では、学習内容をより定着させ、受講生を飽きさせず、能動的な作業をさせるため、授業時間内に確認テストや小レポートを課した。文章や計算を苦手とする学生のため、文章で説明させる問題や式を立てて計算する問題を中心に出题した。自らの考えをまとめさせる問題も出题した。提出された課題はすべて添削し、次回の授業で返却した。</p> <p>基礎・専門演習では、実験や調査などの自らの頭と体を動かす活動を重視し、正規の授業時間以外にも活動できる時間を確保した。演習での活動は学年を問わず全員参加を基本とし、上級生が下級生を指導する体制を敷くことで、指導力や協調性などが養われるようにした。セミナーで実施した研究の成果は、論文としてまとめさせ、四日市大学論集に投稿させることで、科学的な文書を作成する力を身につけさせた。</p>		
2. 作成した教科書、教材、参考書	<p>担当する専門講義科目において、各回 A3 両面刷りの自作資料を作成および配布した。この資料は書き込み式で板書を無理なく書き取れるように工夫した。すべての資料を集めて製本することで 60 ページの冊子として読み返すことができるようにした。この冊子を確認することで、各授業科目に関する基本的な内容を復習できるような教材を目指し、改善を重ねている。</p>		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	特になし。		
4. その他教育活動上特記すべき事項	<p>次の模擬講義や進路ガイダンス等高校生に対する教育活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四日市西高等学校進路ガイダンス：系統別説明会「環境科学」と「メディア情報学」（2021年7月21日） ● 三重県立久居農林高等学校高大連携授業「キミにもできる！土壌調査に挑戦！！」（2022年2月7日） ● 三重県立久居農林高等学校高大連携授業「人間と環境問題の歴史」、「森林破壊と砂漠化」（2022年2月10日） ● オープンキャンパス模擬講義「フルーツや野菜をはかる～果実中の糖度・酸度分析」（2022年10月8日） ● 愛知黎明高等学校模擬講義「森林破壊と砂漠化」（2022年10月13日） ● 四日市西高等学校模擬講義「農学と食糧・環境問題」（2022年12月16日） ● 三重県立久居農林高等学校高大連携授業「人間と環境問題の歴史」、「森林破壊と砂漠化」（2023年2月6日） ● 三重県立久居農林高等学校高大連携授業「キミにもできる！土壌調査に挑戦！！」（2023年2月9日） 		

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著のみ記入)	該当頁数
論文					
鈴鹿山脈におけるニホンジカの食性：高標高域と低標高域のササ利用の比較	共著	2022年3月	「四日市大学論集第34巻第2号」四日市大学学会	寺井駿介、廣住豊一、◎橋本幸彦	159-164頁
根域冷却装置の試作とトルコギキョウ‘ピッコローサスノー’に対する培地冷却効果	共著	2022年3月	「四日市大学論集第34巻第2号」四日市大学学会	伊藤裕香、◎廣住豊一	165-176頁
Application development and practice model for radiation education	共著	2022年4月	IEEJ Transactions on Fundamentals and Materials Vol.142 No.7 pp.300-306 DOI:10.1541/ieejfms.142.300	◎Ieyasu Tokumoto, Toyokazu Hirozumi, Masaru Sakai, Junko Nishiwaki, Chihiro Kato, Kunio Watanabe, Masaru Mizoguchi, Yohei Ishikawa	300-306頁
放射線教育のためのアプリケーション開発とその実践例	共著	2022年7月	「電気学会論文誌A(基礎・材料・共通部門誌)第142巻第7号」電気通信学会	◎徳本家康、廣住豊一、坂井勝、西脇淳子、加藤千尋、渡辺晋生、溝口勝、石川洋平	300-306頁
ポリ塩化ビニルパイプを用いた簡易で省スペースな湛液型水耕栽培装置の試作	共著	2022年10月	「四日市大学論集第35巻第1号」四日市大学学会	マハルジャン サジン、アチャリア ソムナス、◎廣住豊一	77-84頁
四日市大学周辺のマダニ類一とくに新興感染症の媒介者として一	共著	2022年10月	「四日市大学論集第35巻第1号」四日市大学学会	山川勝行、土井寛大・廣住豊一、◎橋本幸彦	77-84頁
学会発表					
発表(報告)名等	単独 共同	発表の年月	学会名等		
雨よけハウス土耕栽培トマトに対する温泉水かんがいの効果	共同	2021年7月	2021年度農業農村工学会大会講演会(福島県・オンライン) 共同研究者：山田直矢、廣住豊一、森康則		
冷水灌漑による根域冷却がトルコギキョウの生育に与える影響	共同	2021年11月	令和3年度園芸学会東海支部大会(三重県・オンライン) 共同研究者：坊祐奈・廣住豊一		
冷却水の施用による培地温度の低下効果とトルコギキョウにおける生育および切り花品質の変化	共同	2022年3月	園芸学会令和2年度春季大会(千葉県・オンライン) 共同研究者：廣住豊一・坊祐奈		
グロースキャビネットによる気温制御がトルコギキョウの発芽率および抽苔率に与える影響	共同	2022年3月	園芸学会令和3年度春季大会(滋賀県) 共同研究者：廣住豊一・鼎喬		

外部資金		
資金名	助成期間	課題名等
四日市大学特定プロジェクト研究	2020年7月～ 2023年3月	北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築
Ⅲ 社会における主な活動		
学会活動		
2020年4月～2022年3月	評議員(土壌肥料学会中部支部)	
2021年11月	令和3年度大会・研究発表会「花卉Ⅰ」座長(園芸学会東海支部)	
2021年4月～2023年3月	庶務幹事(園芸学会東海支部会)	
2021年4月～2023年3月	庶務幹事(土壌物理学会)	
2022年3月	令和4年度春季大会「花卉Ⅰ(栽培・作型Ⅰ)」座長(園芸学会)	
2022年8月	令和4年度大会・研究発表会「利用」座長(園芸学会東海支部)	
2023年4月～現在に至る	評議員(園芸学会東海支部)	
2023年4月～現在に至る	会計幹事(土壌肥料学会中部支部)	
講演等		
2021年10月	三重ジュニアドクター育成塾「環境に対する土の働き」講師(三重大学)	
2022年3月	特定プロジェクト研究中間報告「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」(四日市大学)	
2022年3月	市民向けフォーラム「未来へつなぐSDGs～地域の自然・里山保全～」(一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会)	
2022年6月	三重ジュニアドクター育成塾「環境に対する土の働き」講師(三重大学)	
2023年3月	特定プロジェクト研究最終報告「北勢地域における森林価値再発掘と里山圏資源循環モデルの構築」(四日市大学)	